

## 2008年 新年おめでとうございます 今年もさらなるご協力をよろしく申し上げます



新年（2008年）を迎え、ご支援者の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

さて、当財団は、今年8月31日で設立30周年を迎えます。振り返れば、貧困に苦しむスラムの住民たちが、自らの手でタイ政府関係者と交渉し、正式に財団として認可されるまでにはいろいろと困難なことがありました。しかし、本当に多くの海外からのご支援者やタイ関係者のご協力のお蔭で、これまでに20万人を超える貧困家庭の子どもに対して教育奨学金を支給し、また様々なプログラムを展開するなかで最低限の教育を受ける機会を子どもたちに提供することができました。

また、近年は「生き直しの学校」の運営にも積極的に取り組み、奨学金を支援していただいております。里親の皆様に加えて、数多くの皆様からご協力を賜り、一人一人の子どもたちの成長を見守るだけでなく、家庭の事情で勉学を断念せざるを得なくなった子どもたちに対しても励ましのお言葉をたくさんいただいております。

タイでは、2006年9月のクーデターを受けて昨年12月23日ようやく総選挙が実施されましたが、政情不安は依然として続いており、当財団も大変厳しい環境の中で活動しております。これからもご支援者の皆様のご厚意を決して忘れることなく、30周年を節目にさらに前進してまいりたい所存でございます。

財団職員一同、そしてスラムの子どもたちに代わりまして、深く感謝申し上げますとともに、本年の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

ドゥアン・プラティープ財団事務局長  
プラティープ・ウンソンタム秦

プラティープ事務局長  
エルセラーン・グループ報告会に出席

昨年12月19日から23日まで、当財団のプラティープ事務局長は**秦辰也氏**とともにエルセラーン・グループでの3回目となる報告会に出席するため訪日しました。エルセラーン・グループには、当財団が推進しております子どもたちの教育支援活動、および「生き直しの学校」に対してご支援をいただいております。今回の訪日では、石橋勝社長とエルセラーン1%クラブの皆さん1500人にお会いしてきました。

このほか、京都の小学校も訪問し、生徒らと交流してきました。



移動図書館と人形劇活動のために  
佐藤君男さん、キャラバン車を贈呈

昨年11月、佐藤君男さんから当財団に、「移動図書館活動と人形劇活動のために」と、キャラバン車を贈呈していただきました。佐藤様には、3年前のインド洋大津波被災地で実施された復興事業でも、おはなしキャラバンチームに対してキャラバン車を贈呈していただいております。



当財団の「おはなしキャラバン」活動は、スラム地域の学童が読書に親しむことを目的に開始されました。以来、子どもたちの視野を広めるためいろいろなゲームやプログラムを作成し、バンコク近郊の学校を中心に年間3000回ほど実施。これまでに約5万人の子どもたちが参加しています。活動に利用されるキャラバン車は、遠隔地の治安のよくない場所にも出かけていきますが、子どもたちの喜ぶ姿にふれることがキャラバンチームにとって何よりの喜びとなっています。

## タイ人留学生 国際高校生選抜書道展で入賞



ほほえみ 73 号でも紹介しましたタイ人奨学生の明るいニュースです。

当財団の奨学生 2 人と、シーカーアジア財団の奨学生 2 人が、昨年 5 月から宮城県仙台市にある仙台育英学園高等学校に 3 年間の予定で留学しています。同高等学校は 4000 人以上いる生徒のうち 26 人が外国人留学生であり、校長は生徒たちの視野を広めることにことのほか熱心です。

スラムや山岳民族の子どもたちにとり今回の留学は、言葉・文化・習慣を学び、国際的な視野を広める絶好の機会です。また、日本だけでなく、各国の留学生からはその国の文化を学ぶこともできます。これは将来、タイの発展のために大きく役立つことでしょう。

4 人の奨学生が仙台育英学園高等学校に留学して 7 ヶ月間経ちました。最初は習慣や言葉の壁にぶつかり、意思の疎通ができず、奨学生も、受入先の学校側も困難が多かったようです。しかし、今では留学生らは日本社会に順応し勉学に励み、高校生活を楽しんでいます。

そして、昨年末、奨学生の 1 人である高校 1 年のスモンラット・コーンホームさん (16 歳) が、国際高校生選抜書道展の個人の部で、出展者 400 人中 16 位となり、表彰式されました。このニュースは毎日新聞・全国版で報道されています。

今回の受賞は、彼女の可能性を引き出すよい機会ともなり、どんな状況に置かれても前向きに歩いていくことの大切さを学ぶことになりました。当財団では、彼女が精一杯努力してきたことを誇りに思うとともに、これからも頑張ってもらいたいと切に願っています。



## 日タイ修好 120 周年記念イベント 太神楽曲芸協会が名人芸を披露



昨年 12 月 6 日、日本の伝統芸能「太神楽」を広めている太神楽曲芸協会の演者 6 名が訪タイ。「1 日 1 パーツ学校」の前進であるパタナー共同体小・中学校でその名人芸を披露していただきました。

当日は、午前と午後の 2 回公演で、生徒約 1500 人が演者の芸に目を奪われていました。厳しい修業と集中力の賜物である技に触れ、会場内は笑いが絶えませんでした。



太神楽曲芸協会の鏡味会長は、公演後の談話の中で、「実は、太神楽の曲芸を今から 40 年前にルンピニ公園で国王・王妃両陛下にご披露したことがあるのです」とおっしゃっていました。海外公演の場として、今回クロントイ地区を選んでいただいたことは大変幸運であると思っております。どうもありがとうございました。

## 津波復興プロジェクトから 津波レポート

南タイ 6 県を襲った大津波から 3 年が過ぎました。思えば、突然の不条理な大惨事で、何万もの被災者の方々が愛する家族や友人、知人を目の前で失くし、慟哭にくれました。しかし、今では二度と悪夢のようなあの災害が再発しないことを願い、人々も徐々に平静を取り戻して暮らしています。被災した町や村も、一見すると何事もなかったかのように復興し、月日の経つ早さを感じます。これもひとえに、国内外からのご支援者のみなさまのお陰であり、被災した人々も復興に立ち上がることができたのだと思います。



プラティープ財団は、設立以来これまでスラムや東北タイの子どもたちに教育支援事業を中心に活動してきましたが、2004年12月26日のあの惨事に直面し、大規模な救援活動に取り掛かりました。一瞬にして全てを奪われ、途方にくれ、悪夢にうなされ、恐怖に怯える被災者の方々に行った最初の活動は、心のケアであり、被災した子どもたちへの支援活動でした。被災直後から今日まで、特に肉親を亡くした孤児たちの支援活動に力を入れてまいりましたが、その活動を継続していくために被災地で津波孤児センター『バーン・ターンナムチャイ（慈悲の家）』を建設し、2006年8月29日には竣工式を行いました。現在、40人の子どもたちが共同生活をしており、15人の職員が地域の公共機関やNGOとの調整を担当しています。15人の職員は、ほとんどが津波で家族を失くしている人たちです。

この3年間に、当財団が行ってきた緊急救援・復興活動は下記の通りです。

- ① 被災直後のクロントイ消防隊ボランティアと「生き直しの学校」チュンポーン校の青年たちによる、遺体の収容作業。
- ② 被災者たちの臨時住居（テント）の設置2ヶ所（バーンムアン、プルッティアオ避難地区）。安心して休息でき、子どもたちが遊べるような環境づくり、また未だ発見されない親族の遺体捜し、犠牲者の葬儀参列など。
- ③ 乳幼児を抱えた母子たちに対する衛生センター設置とミルクの提供。
- ④ 職業促進として、また精神的な安定を図るための「バティック（ろうけつ染め）づくり」と作品としての販売（2千人が参加）。
- ⑤ 被災地（南タイ6県—プーケット、ラノー、グラビー、トラン、サトゥーン、パンガー）の学校にて人形劇活動を実施（3年間で5万人に公演）。
- ⑥ バーンムアン地区に「瞑想センター」を設置。被災者たちが祈祷したり、精神的に落ち着く場所として活用。僧侶による説教を聴き、緊張感を和らげ、心を静めていく場を提供。
- ⑦ 被災者及び津波孤児に対する教育奨学金制度を実施。地域の学校を調査した結果、父親又は母親が死亡した小中学生が3千人以上であったため、当財団では一人当たり年間2,500バーツの奨学金を支給した。

- ⑧ 被災地パンガー県バーナムケム村では、漁師として生計を立てていた人が多く、漁船や家屋も奪われたため、被災者が職業復帰できるように漁業用具を購入。500セット（1セットにつき5万パーツ）を提供。
- ⑨ 保護者を失くした思春期の青年たちを対象として、セミナー・キャンプ、手工芸品活動、タイ伝統舞踊、楽器演奏、研修旅行など、余暇を有効に使うための活動を実施。  
毎週土・日曜日には、下記の地域から415人のメンバーが「バーン・ターンナムチャイ」センターに集まってきます。

- ・ヒンルークディヤオ村のモーゲン族 28人  
(海のジプシー)
- ・バーンターチャツタイ 155人
- ・コーカウ島 12人
- ・バーンムアン地区 150人
- ・バーンノークナー 40人
- ・津波孤児センター 30人



また、昨年12月26日、自治体やNGOが協力し、ウボンラット王女を主賓に招いて、津波犠牲者の冥福を祈る式典が厳かに行われました。

こうした多くの活動を進めるにあたっては、ご支援者の皆様のご協力がなければ決して成功できませんでした。当財団では、今後も津波の孤児たちの命をまもり、みんなが安心して勉学に励み、横道に反れないよう生活指導などにも心がけていくつもりです。また、地域では、津波警報器の設置や書類不備のため家屋建設の認可が取れない人たちの問題などもあり、今後解決していかなければならない課題であると思っています。

現在では、ほとんどの支援団体が被災地から撤退していきしましたが、当財団は今後も津波復興プロジェクトを実施してまいりたいと存じます。今後とも、ご理解とご協力どうぞよろしくお願いいたします。

エイズ予防対策プロジェクト  
青少年対象の研修会を開催

エイズ予防対策プロジェクトでは、11月3日（土）、4日（日）の両日、日頃から当財団のジム施設に通っている青少年と、クロントイ地区在住の青少年、計40名を対象にペップリー県でエイズ予防をテーマとした研修会を行いました。

エイズに対するお互いの考え方を知るためのブレインストーミング（グループの中で自由に意見や考えを出し合い、多くのアイデアを集める方法）活動や、職業とHIV感染の関連性を考える活動などを2日間にわたって行いました。



## ドゥアン・プラティープ財団

### The Duang Prateep Foundation

Lock6, Art-Narong Road, Klong Toey

Bangkok 10110 Thailand

Tel:001-66-(0)-2249-3553, (0)-2249-4880

Fax:001-66-(0)-2249-5254

E-mail:dpffound@ksc.th.com

ホームページ:http://www.dpf.or.th

銀行口座：三井住友銀行バンコク支店

口座名：The Duang Prateep Foundation

口座番号：2041159421

\* 送金の際はご住所、お名前、ご送金の目的等を当財団国際部までご連絡賜りますようお願い申し上げます。

To :

## 子どもの日 ガラヤニ王姉殿下を追悼

タイでは、毎年1月の第2土曜日が「子どもの日」となっており、当財団でも今年はこの日（今年は1月12日）にイベントを行いました。

スラムの子どもたちの教育支援活動を推進してきました当財団は、今年で早30周年を迎えることになりました。30年間の活動を通じて学んだことは、貧困家庭の子どもたちの問題は複雑であり、年々深刻度を深めているということです。そのため、常に最も効果的であると思われる対応策を模索してきました。

今年のイベントは、スラム地区の子どもたち約2000人が参加。1月2日にガラヤニ王女殿下（現タイ国王の姉君）が逝去されたため、例年よりも質素なイベントとなりましたが、子どもたちと保護者が一緒に楽しむことができました。

また、ガラヤニ殿下を偲び、参加者一同でご冥福を祈りました。殿下はご生前、10回に渡りクロントイ・スラムを訪問されており、当財団には6回お見えになっています。

なお、イベント会場では、信用組合と保護者グループによる「貯蓄をしよう！」ブース、エイズ予防対策プロジェクトを紹介する「予防とは？」ブース、子どもたちの想像力を育むゲームブースなど、7つのブースが設けられました。

今年も大勢の皆様にご協力をいただき、無事に「子どもの日」のイベントを終えることができました。

